

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025
佐倉市鍋木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ	としょさん	坪井栄子	愛しのコンサティナー	原田美恵子
3 ページ	一枚の古い写真から	壺阪一弘	ぼんぼこ	永見 一

新春に寄せて

佐倉市長 蕨 和雄



新年あけましておめでと
うございます。健やかに新春を
お迎えになられたことと心よ
りお慶び申し上げます。

『なかま』は昨年、(社)日
本善行会より特別表彰善行銀
章を受賞されました。初刊以
来、三十年以上の努力が評価
されたものとうれしく思っ
ております。毎月『なかま』を
発行するにあたっては、いろ
いろなご苦労があると思いま
すが、引き続きご尽力いた
だきたいとお願い申し上げま
す。

さて、私の趣味であります
書道で、今年の干支にちなん
で、「牛」という字を書かせて
頂きました。私も佐倉市長の
職に就いて、二回目の新年を
迎えることができました。こ
れも市民のみなさまのご協力
によるものと心から感謝いた
しております。

平成二十年は、愛着の持て
る「ふるさと佐倉」の創造を
目指してさらに一步を踏み出
した年でありました。市役所
の組織改正をはじめ、学童保
育所の増設や乳幼児医療費助
成の拡大など子育て支援策の
充実、京成ユーカリが丘駅舎
のエレベーター・多機能トイ
レの整備など福祉のまちづく
りを推進してまいりました。
また、日米修好通商条約締結
百五十周年を記念した事業を
実施し、幕末を生きた郷土の
先覚者に思いを馳せた年でも

ありました。

社会に目を向けますと、北
京オリンピックが開催され、
様々なスポーツからたくさん
の感動をいただきました。し
かし、汚染された食品や産地
偽装といった食への不安、原
油をはじめとする原材料価格
の高騰による生活物資の高
騰、アメリカの金融危機に端
を發した景気の後退等、これ
からの社会生活に不安を抱か
せるニュースが多かったよう
に感じます。

平成二十一年は、この影響
から大変厳しい年になること
が予想されますが、丑年は
「社会に密接に関わる干支」
であり「粘り強さと誠実」が
特徴とされています。粘り強
くそして誠実かつ着実に、「子
育てしやすく、学びやすく、
働きやすく、老後を過ごしや
すいまちづくり」を引き続き
進めてまいります。

結びに、皆様のご健勝とご
多幸を心からお祈り申し上
げ、新年の挨拶とさせていただきます。

としよさん

娘の夫が自分の祖母に向かつて、彼女の名前でもないのに「としよ」と呼びかけた。こんな温かな響きのする呼び名がある事を初めて知り、とても感激させられた。

我家の娘が印旛村の農家の長男と縁があり十年が過ぎた。「としよ」という呼び名は、佐倉近郷でだけ使われているのかどうかは不明だが、農村地帯のかつての大家族時代の名残りの様な気がする。「としよ」とは年寄りを意味するのだそうで転じて、年寄り爺さん、婆さん、そしてとしよ爺さん、婆さんとなり、肉親の男性達はさらに短くして、としよと呼び捨てにする。女性達はさんづけをする。私達までとしよさんと呼んでいる。娘が結婚した頃は、ゲートボールの花形だったとしよさんも、九十歳を過ぎた現在はやはり歳は争えない事となつ

てきた。数年前、としよさんが入院した時、娘の婚家では私達の内緒にしていたが、彼女のひ孫達（私達の孫達）は可愛いものだ。夫と一緒にの時、お宮さんの前で小さな手を合わせて、としよさんが早く退院出来ます様にと、お祈りをしたので私達の知るところとなつた。取り敢えず、婚家の方へ見舞いに伺いこの話をすると、「早くとしよさんに聞かせたいわ、泣いて喜ぶわよ」と、こちら姑までが声をつまらせての対応であつた。

としよさんの家系は女性が早婚なので、彼女には二歳になる女の児のやしやご（玄孫）さんがいる。その次の代のきしやご（来孫）あたりになると世界中でも、一、二件とかでギネスブックの記録ものだそう。是非とも、としよさんには頑張つて、元気で長生きして頂き、ギネスブックに載つてもらえる様に心から願つている。

（新臼井田 坪井栄子）

愛しのコンサートイーナ

私の手元にコンサートイーナという楽器があります。バンドネオンより小さくてジャバラの押し引きで音が出ます。

両面に二十個ずつのボタンがあり右手でメロディー、左手で伴奏を弾く事ができます。この種類のコンサートイーナは日本では二台だけだそうです。十年前友人の住むアイルランドへ行き、パブやコンサートでこの楽器と出会いました。素朴な響きで、民族音楽にはぴったりでした。私は一目惚れしました。日本にはないだろうと思ひながら帰国しました。

アイルランドのお土産を持つて夫の実家へ行きました。いつも見慣れていたはずの海外の置物が並んでいるガラス棚の奥にコンサートイーナが。「どうしてここに？」スウェーデン系の亡義父が五十年前に英国で特注で作らせた物で

した。まるで私を待っていたかのようにした。

私は譲り受けましたが、どのように弾いてよいかわかりません。楽器店など尋ねましたが誰も知りませんでした。

ある日娘の学校のPTAの集会で偶然に隣に座った人がピアノの先生でした。話をすると「友人が東京で有名なアコーディオンの調律師だから、聞いてあげる」と言われました。この偶然な出会いから、次々と運命的な出会いが始まりました。東京で一人しかいないという先生も紹介していただきました。「このコンサートイーナは素晴らしい。英国でもこれを作る職人はもういないかもしれない」と言われました。

五十年経ても音の狂いはなく、弾けば弾く程音色が良くなつていきます。「将来の夢？」もちろんパブで弾くこと！もつと練習しなければ

（西志津 原田美恵子）

一枚の古い写真から

やたらに昔を懐かしむ歳になつた。

母校の姫路市立白鷺はくろ中学校同窓会の知らせがきた。久しぶりに昔のアルバムをちよつと開いてみた。数少ない写真の中で一枚の写真が目についた。仲良し六人組が、当時は須磨にあつたラジオ神戸の前の庭に座つて楽しそうにしゃべっているモノクロ写真だ。思い出起こせば、中学三年の時ラジオ神戸で合唱を終えた後の写真だ。

当時の合唱部は女の子ばかりなので、我々器楽部の男子六人が急遽集められて総勢三十人の混声合唱に編成したものだ。「箱根八里」や「狩人の合唱」など五曲くらい歌つたと記憶する。引率の校長先生に撮ってもらつた写真だと思つが、それを見ているうちにその時代の楽しい思い出がいろいろ甦つてきた。

同窓会の当日、無事出席

していた五人に、この写真の話をした。合唱に誘い込まれた決め手は合唱部のマドンナの呼びかけであつたこと、練習のあと先生の目を盗んで近所の白川食堂へ素うどんを食べに行つたこと、ラジオ神戸はケチで鉛筆一本しかくれなかつたこと、その頃流行つていたダイナ・シヨアの「青いカナリア」に話が及び、その流れで「ツボ、おまえ、アメリカンポップスの懐メロ集を作れ！」ということになつた。どうせ「こんな曲は俺は好きじゃない」とかなんとかブツブツ言うに決まっているが受取つた時の彼らの嬉しそうな顔を想像しながらCDを作るのは楽しい作業だつた。

ラベルにその写真を印刷したのは言うまでもない。

(白銀 壺阪一弘)

ばんぼー

季節というものはちゃんと巡ってきますが、我が悪童連は暑いといつては呑み、寒いといつては呑み、何かと屁理屈をつけて呑む。そんな仲間ひとりごと、とうとう田舎風居酒屋を開いてしまった。

当初は冷かし半分で入れ替わり立ち替わり通つていたが日がたつにつれ疎遠になり、久しぶりに顔を出したがこのご時世例外なく不況の波に常連客の足も遠のき、気のいい彼はその常連客のつけに悩まされていた。「貸し借りお断り」の張り紙があるが、これでは色気も何もありません。

これが「貸して不仲になるよりもいつもニコニコ現金払い」これもなんと味気ない。そこで若い頃寄席通いで講釈師から聞いた「貸し借りは奈良の都の刀鍛冶、先も切れます元も切れます」どうです、粹じゃありませんか。せつか

くいい関係になつたのに先(客)と元(店)の縁が切れてしまひますと言っているのです。

調子にのつて普通つた下町のどぜう屋にこんな文句の額が掲げてあるのを思い出ししました。「春夏冬二升五合」これをどう読むのか、春夏秋冬ならわかるが、春夏冬。秋が欠けている。秋無い、アキナイ。二升は升が二つだから升升マスマス、五合は一升の半分で半升、ハンジヨウ、アキナイマスマスハンジヨウつまり「商いますます繁盛」と読む。

判じ物と言いますが下町にはこういうシャレがまだ残っているのです。

ちよいといい気になつて物知り顔で能書きをたれると彼はビツクリ、私を尊敬のまなざしで見ただけですが、これが景気づけになつて左団扇で、ばんぼこ腹鼓を叩くほど繁盛すれば万々歳。

(上志津 永見 一)

1月の黒板

『なかま』原稿募集のお知らせ

『なかま』の2・3面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。

【原稿規定】 字数 650字(13字×50行)以内。ワープロによる原稿(縦書き)でも結構です。

内容 随筆・・・日常の出来事、生活の中で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などご自由にお書きください。

『なかま』に対するご意見・ご感想などもお待ちしております。

いただいた原稿は、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただきます。

問い合わせ 佐倉市立中央公民館 (第2・第4月曜日は休館日です)

電話 485-1801

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm>

わくわく道

我が家の近くを手繰川が流れている。源流は不明だが印旛沼に流れ込んでおり、河口付近でも川幅が二桁前後の小さな川だが、一級河川にランクされている。土手は草が刈られそこそこ整備されており、蛇に出会う虞のない秋口から春先にかけて格好の散歩道として利用している。

又この時期にはコバルトブルーの美しいカワセミを見か

けるようになった。個体数が増えたのか昨年は散歩の都度出会えるようになった。評判を聞きつけ近郊のカメラ愛好家が集まり、辛抱強くシャッターチャンスを待っているのをよく見かけるが、残念ながら川の中はゴミで汚れている。この美しいカワセミのためにもボランテアでは一寸荷の重い川濂いを行政の手でぜひ行なってもらいたいものだと思っている。

(池田圭三)

あとがき

明けまして

おめでとうございます
暗いニュースが続いた昨年でしたが、今年こそは明るいよい年になるよう期待したいものです。

さて、本号には蕨市長からご寄稿を戴き、またご投稿の佳品を揃えて、今年己丑年の幸先のよいスタートを切ることができました。

「としよさん」ですが、辞典で調べてみると古代中国の辞書の『爾雅』から「曾孫之

子為玄孫、玄孫之子為来孫」と引用されています。来孫という言葉がある以上、中国では来孫があったと思いますが、玄孫のやしゃごに相当する和語(きしゃご)が載っています。

百歳以上の人を百寿者といっています。百寿者の家系に早婚なら来孫も夢ではないと思います。としよさんの更なるご長寿を祈念致します。

(金井 義彰)

己丑 つちのとのうし、

きちゅう(六十干支)